

G7「核保有国声明も」

核保有国声明も

「核軍縮に関する初めてのG7独立宣言だ。核兵器のない世界に向けた国際的な機運を高めることができた」。主張アドバイザリーミニストラル委員会（G7広島サミット=19～21日）で発表された「核軍縮に関するG7首脳声明」について、岸田文雄首相はこう語った。した（24日、衆院予算委）。しかし、被爆者や反核・平和団体からは「失望した」などとい、厳しい声が相次いでいる。

「広島ヒュン」の最大の問題点は、核兵器の非人道性や、史上初めて核兵器を違法化した核兵器禁止条約に言及せず、これとなれば核兵器を使用する「核抑止」を全面的に正当化してしまったのだ。

ロシアによると、「このかみの核兵器の使用も許されない」と非難する一方、G7参加国の核兵器について、「それ（核兵器）が存在する限りにおいて、防衛目的のため役割を果たし、侵略を抑止し、並びに戦争及び威圧を防止すべきとの理解に基づいている」と述べている。この文言が使用されたのは初めてではありません。ロシアのウクライナ侵略開始を前にした



献花後、原爆ドームに目をやるG7首脳ら=19日、広島平和記念公園（G7広島サミット公式サイトから）と「核抑止」を正当化した「核軍縮に関するG7首脳声明」（下線は本紙）

核は「防衛目的」 究絶は「先核目標」

昨年1月3日、米英仏中ロの核保有5カ国（P5）が突如、「核戦争阻止と廃絶競争回避」に関する「G7共同声明」を発表。同声明は、「核戦争は勝利がありえず、決してたたかってはならないものである」とした上で、核兵器について「それが存在し続ける限り、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、戦争を阻止するものであるべきである」としており、「核抑止」を正当化しています。このように、「広島ヒュン」は米国を中心とした核保有国の意向に沿ってつくられたのではないか。これが「広島ヒュン」は、「核兵器のない世界」に賛成していることである。この声明はまた、「核兵器のない世界」に賛成していることを示すもの、それを「究極の目標」に位置付け、永久に先送りしていません。P5の共同声明も「核兵器のない世界を実現的目標とする軍縮の前途」と述べておらず、「核なき世界」を「究極目標」としている点は全く同じだ。

P5声明は当然ながら、核兵器を違法化した核兵器禁止条約について、「最も触れていない」と述べています。この文言が使用されたのは初めてではありません。ロシアのウクライナ侵略開始を前にした

5月28日付の「広島ヒュン」は、「核兵器のない世界」に賛成していることを示すもの、それを「究極の目標」に位置付け、永久に先送りしていません。P5の共同声明も「核兵器のない世界を実現的目標とする軍縮の前途」と述べておらず、「核なき世界」を「究極目標」としている点は全く同じだ。

P5声明は当然ながら、核兵器を違法化した核兵器禁止条約について、「最も触れていない」と述べています。この文言が使用されたのは初めてではありません。ロシアのウクライナ侵略開始を前にした

5月28日付の「広島ヒュン」は、「核兵器のない世界」に賛成していることを示すもの、それを「究極の目標」に位置付け、永久に先送りしていません。P5の共同声明も「核兵器のない世界を実現的目標とする軍縮の前途」と述べておらず、「核なき世界」を「究極目標」としている点は全く同じだ。

P5声明は当然ながら、核兵器を違法化した核兵器禁止条約について、「最も触れていない」と述べています。この文言が使用されたのは初めてではありません。ロシアのウクライナ侵略開始を前にした